

TDB 圏域別景気 DI (2020 年 8 月)

3 大都市圏における圏域別景況感、改善要因は多様な様相
～ 同一地域内であっても景況感に濃淡がみられる ～

データソリューション企画部

池田 直紀

TDB 景気動向調査 (2020 年 8 月) の景気 DI は 3 カ月連続で前月比プラスの 29.7 となった。自宅内消費の拡大や新たな住宅ニーズの高まりなどのほか、国内での自動車部品の生産持ち直しなどがプラス要因となった。しかし、全国一様な改善はしておらず、また各地における改善要因も同一ではない。特に、日本の人口や企業が集中し、東京、名古屋、大阪など経済活動の中心を担う 3 大都市圏についても、景況感の改善に差異が表れている。そこで、本稿では、日本の中心である 3 大都市圏に焦点を当て、さらに圏域¹という地域区分に分割し景況感や改善要因を把握した。

1. 地域別の景況感、10 地域中 6 地域で全国と同水準以上

TDB 景気動向調査 (2020 年 8 月) の景気 DI は、3 か月連続で前月比プラスの 29.7 となった。全国を 10 地域で見ると、全国と同水準以上の地域は、全 10 地域中トップであった『北海道』(33.4) や『九州』(31.8) など 6 地域、全国を下回っている地域は『東海』(27.7)、『北関東』(28.0) など 4 地域となった。

とりわけ、『南関東』は 30.4 と全国を上回っているが、『東海』(27.7)、『近畿』(28.1) は全国を下回っており、『東海』は全 10 地域中最も低い水準となった。日本の経済活動の中心を担う 3 大都市圏であっても景況感に差異が表れていた。

図 1 地域別の景況感

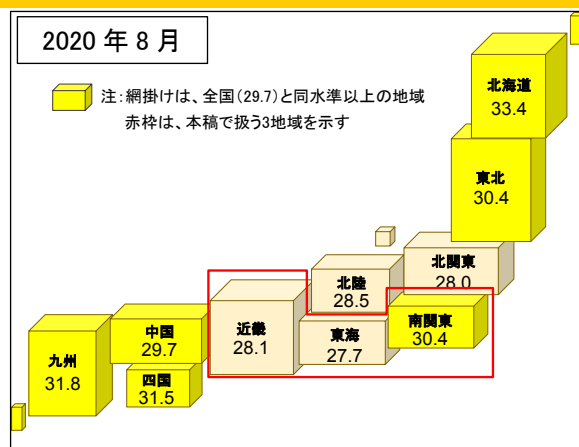


表 1 地域別の景況感 (順位)

地域名	景気DI	順位
北海道	33.4	1
東北	30.4	4
北関東	28.0	9
南関東	30.4	4
北陸	28.5	7
東海	27.7	10
近畿	28.1	8
中国	29.7	6
四国	31.5	3
九州	31.8	2

注: 本稿で扱う3地域は太字で表記
出所: 帝国データバンク「TDB 景気動向調査」

¹ 企業が実感する地域の景況感により近づけるため、地域の経済的なつながりや交通網などを考慮し全国 47 都道府県を 130 の圏域に分割した。本稿では『南関東』『東海』『近畿』の 3 地域 38 圏域を対象とし、圏域別景気 DI を算出

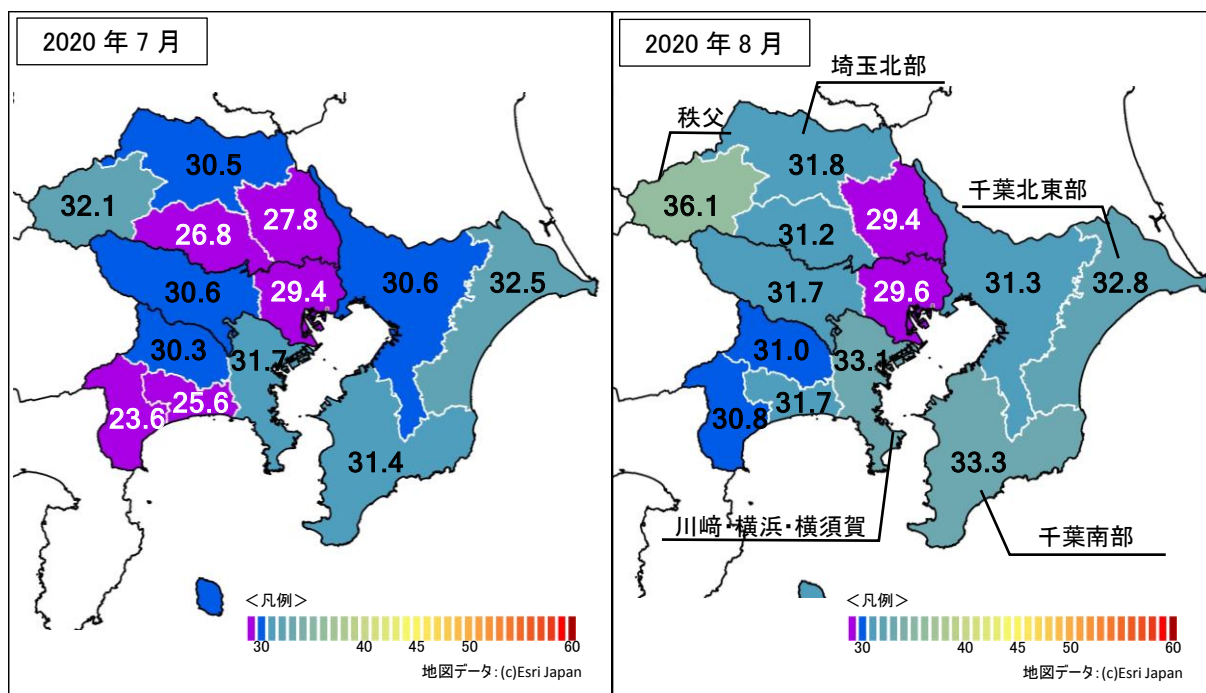
2. 『南関東』における各圏域の改善要因に差異

『南関東』（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）における8月の景気DIは、前月比0.7ポイント増の30.4となった。『南関東』を13の圏域に分割して圏域別景気DIをみると、埼玉県秩父市などの「秩父」が36.1（前月比4.0ポイント増）でトップとなった。次いで、千葉県木更津市などの「千葉南部」（33.3、同1.9ポイント増）、神奈川県横浜市などの「川崎・横浜・三浦」（33.1、同1.4ポイント増）、千葉県銚子市などの「千葉北東部」（32.8、同0.3ポイント増）、埼玉県熊谷市などの「埼玉北部」（31.8、同1.3ポイント増）が続いた。改善の幅に差異はあるが、13圏域すべてで改善した。

特に、「秩父」は『サービス』、「千葉南部」は『卸売』、「川崎・横浜・三浦」は『小売』の改善が景況感の押し上げに寄与していた。企業からは「2019年の台風復旧事業のため、需要を見込める」（建築材料卸売、千葉南部）といった声などがあげられ、1都3県のなかでも、各圏域の景況感の改善には違いがみられた。

他方、埼玉県さいたま市などの「埼玉南部」は29.4（前月比1.6ポイント増）、東京都の「区部」は29.6（同0.2ポイント増）と、改善がみられるものの引き続き30を下回る状態が続いている。

図2 『南関東』における圏域別景気DI（左図2020年7月、右図2020年8月）



出所：帝国データバンク「TDB 景気動向調査」

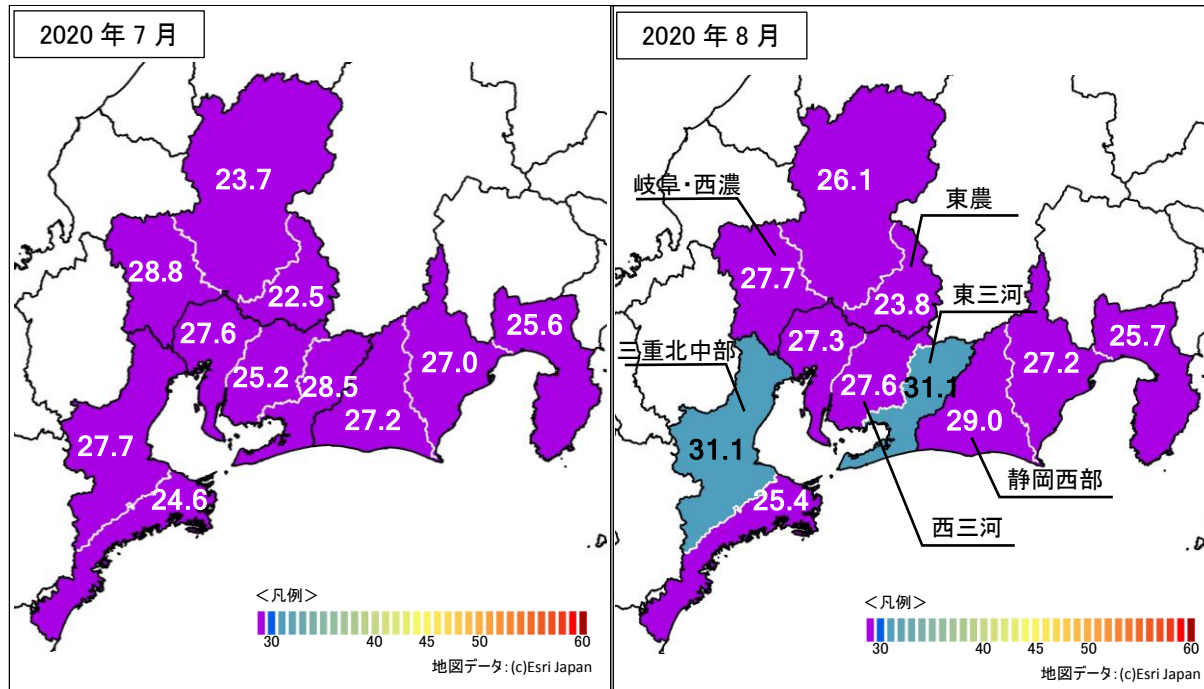
3. 『東海』における各圏域の景気 DI は、改善はみられるものの厳しい見方が続く

『東海』（岐阜県、静岡県、愛知県、三重県）における8月の景気DIは、前月比0.7ポイント増の27.7となった。『東海』を11の圏域に分割して圏域別景気DIをみると、愛知県豊橋市などの「東三河」と三重県津市などの「三重北中部」がともに31.1（それぞれ前月比2.6ポイント増、同3.4ポイント増）で最高となった。次いで、静岡県浜松市などの「静岡西部」（29.0、同1.8ポイント増）、岐阜県岐阜市などの「岐阜・西濃」（27.7、同1.1ポイント増）、愛知県豊田市などの「西三河」（27.6、同2.4ポイント増）が続いた。「東三河」「三重北中部」を除く他の圏域では引き続き30を下回っている。

企業からは「新型コロナウイルス感染症によるサプライチェーンへの影響や、愛知県独自の緊急事態宣言により地域全体に売上減少により景況感の悪化を感じる」（建設、尾張）や「物販関係・土産物関係の販売が回復しない」（飲食料品・飼料製造、岐阜・西濃）などの声があがっており、景況感に対し厳しい見方が続いている。

また、岐阜県多治見市などの「東濃」は23.8（同1.3ポイント増）となり、圏域内で最も厳しい景況感となっている。特に、「建材・家具、窯業・土石製品卸売」をはじめとする『卸売』が落ち込んだ。

図3 『東海』における圏域別景気DI（左図2020年7月、右図2020年8月）



出所：帝国データバンク「TDB 景気動向調査」

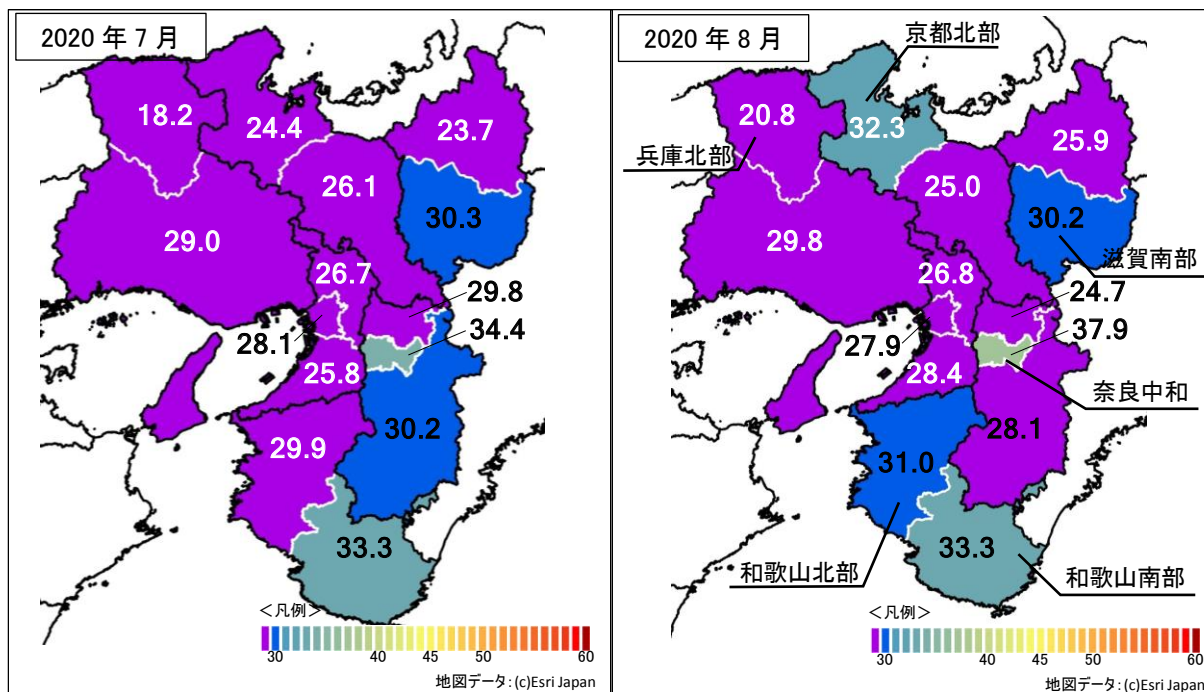
4. 『近畿』における各圏域の景気 DI は、同一地域内にあっても濃淡がみられる

『近畿』（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）における8月の景気 DI は、前月比 0.3 ポイント増の 28.1 となった。『近畿』を 14 の圏域に分割して圏域別景気 DI をみると、奈良県橿原市などの「奈良中和」が 37.9（同 3.5 ポイント増）でトップとなった。次いで、和歌山県田辺市などの「和歌山南部」（33.3、前月と同水準）、京都府福知山市などの「京都北部」（32.3、同 7.9 ポイント増）、和歌山県和歌山市などの「和歌山北部」（31.0、同 1.1 ポイント増）、滋賀県大津市などの「滋賀南部」（30.2、同 0.1 ポイント減）が続いた。

特に、「奈良中和」は『卸売』や『小売』が押し上げ要因となっていた。企業からも「新型コロナウイルスの影響で宅配業が盛況」（飲食料品卸売、奈良中和）などの声が聞かれた。また、前月から域内で最も改善がみられた「京都北部」は、『建設』や『卸売』がプラスに寄与しており、「ネット通販やスーパーなどの日用品需要は昨年よりも良好」（飲食料品卸売、京都北部）といった明るい声もある。

他方、「新型コロナウイルスの影響で受注が減少。開発案件もまったく動きがない」（電気機械製造、兵庫北部）など、兵庫県豊岡市などの「兵庫北部」は 20.8（同 2.6 ポイント増）と域内最低となった。域内最高であった「奈良中和」（37.9）と比較すると、17.1 ポイントの差が生じており、『近畿』の各圏域間において景況感に濃淡がみられている。

図4 『近畿』における圏域別景気 DI（左図 2020 年 7 月、右図 2020 年 8 月）



出所: 帝国データバンク「TDB 景気動向調査」

まとめ

本稿では、TDB 景気動向調査（2020年8月）の景気DIについて、全国を130圏域に分割したうちの3大都市圏における38圏域について景況感の変化を確認した。『南関東』においては、全13圏域で前月から改善がみられ、その改善要因は多様であった。『近畿』においても、改善要因はさまざま。加えて、景況感に濃淡がみられていた。また、『東海』は、3大都市圏の中で最も厳しい景況感となった。概ね7月と比べて改善はみられるものの、「東三河」「三重北中部」を除く圏域で30を下回っていた。

全国的な景況感は改善基調にあるなか、圏域という地域区分でみると日本の経済活動の中心である3大都市圏においても圏域によっては改善の程度に差異があり、悪化がみられる地域もある。景況感とはさまざまな要因で日々変化していく。全国的な主要因だけでなく、各地域や圏域に着目し特徴的な影響を把握することは、地域経済を理解するうえで肝要となろう。

【 問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク データソリューション企画部 産業データ分析課

池田 直紀

03-5775-3163 keiki@mail.tdb.co.jp

帝国データバンクで毎月実施している TDB 景気動向調査にご協力いただける企業さまは、こちらから登録できます（スマートフォン等をお使いの方は QR コードからも可能です）。

<https://www.tdb-di.com/ent/rent.html>



当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。